

令和6年度予算に向けた提言に対する回答

〈提言内容〉

施策名	04	子ども・子育て支援
展開方向	02	子育てと仕事の調和の実現に向けた環境づくり
<p>【保育施設等や児童ホームの適正な保育の量の供給及び質の向上】・【保育士の確保や市内での就労継続につながる支援】</p> <p>・成果と課題</p> <p>保育事業については、認可保育所新設費用の補助により認可保育所を2か所新設し180人の定員を確保することなどにより、前年度4月と比べ244人の定員を増やすとともに、令和4年4月の保育ニーズの実績値を踏まえ、子ども・子育て支援事業計画の中間年見直しを行い、令和5年及び6年の保育ニーズ及び確保方策を見直した。また、市内在住の保育士資格を有する4,535人へのダイレクトメールの送付やウェブ広告の実施などにより、保育士・保育所支援センターあまのかけはしの利用者が増加し、39人の保育士等を法人保育施設への就労につなげるとともに、新卒保育士や潜在保育士等に対する補助の実施のほか、引き続き、保育士奨学金返済支援事業や宿舍借り上げ支援事業を実施した。しかしながら、一方で少子化が進み将来的な保育ニーズの頭打ちが想定されるため、今後の中長期的な保育ニーズを見定めるなど、次期計画の策定等に取り組む必要がある。また、保育士実態調査結果を踏まえ、保育士不足を補うに当たり、これまでと異なる視点からの支援も検討する必要がある。老朽化により建て替えが必要な施設のうち、次屋保育所については、東消防署跡地を候補地とすることができたが、杭瀬・武庫南保育所については、近隣の公共施設等の有効活用の検討など用地の確保を行う必要がある。</p> <p>児童ホーム事業については、民間施設3か所の新設により75人の定員を確保した。また、職員の欠員解消を図るため、代替職員として資格等を有する派遣職員を配置した。しかしながら、引き続き待機児童解消に取り組む必要がある。</p> <p>・今後の取組方針</p> <p>保育所の待機児童の解消に向けては、市独自の保育士確保策を推進することが必要であり、公立保育所においては、定員に応じた保育士の計画的な確保と配置が必要である。また、保育所・児童ホームの定員拡大について、将来的な少子化や保育等のニーズの推計を踏まえ分析を行ったうえで取り組むとともに、老朽化施設の環境改善についても計画的に行うべきである。</p>		

## ≪提言に対する取組内容≫

### 【令和6年度予算編成への反映状況及び今後の取組方針】

#### ○ 保育士確保策について

保育士確保策の推進に係る令和6年度向けの取組として、潜在保育士や子育て支援員研修の修了者等を保育補助者として配置する場合に必要な経費を補助することで、潜在保育士の再就職支援を図るとともに、保育士の業務負担を軽減し、離職防止を図る事業を実施する。

さらに、保育施設への就労希望者等を対象に施設での保育業務の体験を行うことで、実際に園の雰囲気・業務内容等を経験してもらい、就職前の心理的不安の払拭等を図り、就業につなげる。

#### ○ 公立保育所の保育士確保について

公立保育所における、定員に応じた保育士の計画的な確保と配置については、正規職員や会計年度任用職員の増員によって、必要な体制を確保する。

#### ○ 保育所の定員及び老朽化施設への対応について

今後の保育ニーズの動向を的確に見極めながら、既存施設の活用に軸足を置いた待機児童対策に努めていく。

また、老朽化した施設の増改築や大規模改修を行う法人保育園に対して費用の一部を補助するとともに、老朽化の進む公立保育所については、近隣の公共施設等の有効活用の検討など用地の確保に取り組む。

#### ○ 児童ホームの定員拡大について

これまでから、学校ごとの児童数の将来推計や経年的な待機児童の状況、近隣の民間児童ホームの入所状況などを勘案する中で、優先順位をつけて公設児童ホームの増設や民間児童ホームの活用などに取り組んでおり、引き続き、教育委員会とも連携を図りながら学校の空き教室の活用や、民間児童ホームの新規事業者の参入促進や安定的な運営の支援等に取り組んでいく。

なお、令和6年度より、校舎内の空き教室を活用し、武庫庄児童ホームの定員増（40人）を行う。

## ≪提言内容≫

### 教員の資質向上、教育委員会の内部統制の強化、良好な教育環境の確保及び教員不足の対策

【研修等を通じた教職員の人権意識の醸成及び指導力の向上】・【安全・安心な学校園づくり】・【教職員の負担軽減に向けた取組】・【内部統制の推進】

#### ・成果と課題

教員の資質向上に向けた取組については、人権問題や人権教育に関する認識を深めるための研修に加え、情報モラル・セキュリティ研修、アンガーマネジメント・ストレスコントロール研修を実施するなど様々な研修を実施したが、子供を取り巻く様々な人権問題などの課題に対してその知識を深め、対応を強化するためにより効果的な研修を実施する必要がある。

安全・安心な学校園づくりに向けた取組については、いじめの認知件数が増加し、早期発見早期対応につながったが、その対応について情報共有を含め組織的な対応等に学校間格差が見られるため、今後も継続した研修等に取り組むとともに内部統制の強化が必要である。

教職員の負担軽減に向けた取組については、スクール・サポート・スタッフを配置するとともに、出退勤システムを導入したほか、部活動指導員を配置し、顧問の教員の負担も軽減したが、出退勤システムの導入により、在校時間を正確に把握できるようになった結果、時間外在校時間の増加が見られたため、その業務内容について把握する必要がある。また、部活動指導員の配置校における教員の負担軽減効果を踏まえ、未配置校への配置を進める必要がある。

教員については、臨時講師の割合が高く、欠員が出ている状況を改善すべきである。

#### ・今後の取組方針

教職員の資質向上に向けた取組については、時宜に応じ実践的な内容を盛り込んだ研修を実施し、特に虐待や差別事案の対応に当たっては適切な判断と迅速な対応ができるよう、研修を通じ人権意識の醸成・向上に取り組むべきである。

安全・安心な学校園づくりについては、内部統制の強化を図り、学校現場・教育委員会事務局での情報共有と学校間格差の解消に取り組むべきである。

教職員の負担軽減に向けた取組については、教職員の時間外在校時間における業務内容の把握を行い、改善策を検討する必要がある。また、部活動指導員の増員のほか、スクールロイヤーの導入などさらなる負担軽減策を実施すべきである。

教員の欠員に対しては、県教育委員会とも連携し、対策を強化していくべきである。

## ≪提言に対する取組内容≫

### 【令和6年度予算編成への反映状況及び今後の取組方針】

#### ○ 教職員の資質向上に向けた取組について

全校園種を対象にした「体罰防止研修」や令和5年度より開始した「コンプライアンス研修」を引き続き行い、教職員のアンガーマネジメントや法令遵守の意識の向上を図る。さらに、人権問題や人権教育に関する認識を深めるための研修において、ヤングケアラー、多文化共生、子どもの権利条約、LGBTQ等様々な観点について取り扱い、時宜に応じた実践的な内容を盛り込んだ研修を実施し、人権意識のさらなる醸成を図る。

また、教育相談に係る研修を初任者研修において実施するとともに、令和6年度からは新たに虐待対応に係る研修として、関係機関との適切な連携も含めた実践的な研修を実施するなど、児童生徒に関わる様々な課題にも適切に判断し、迅速な対応ができるよう教職員の指導力の向上を図る。

#### ○ 安全・安心な学校園づくりについて

指導主事による学校訪問の際に実施するいじめ対応研修をはじめ、令和6年度に設置するスクールロイヤーによる研修も新たに行うことで、様々な層の教員を対象とした研修を実施し、いじめに関する教員の認知力、対応力の向上を図る。また、市内各校のいじめ対応について、好事例を学校訪問の際に伝えていくことで、学校間格差の解消に努める。

内部統制の強化にあたっては、日頃から意志疎通や連携ができる運営体制を築くことが重要であることから、教育長が学校を訪問して校園長と面談するほか、教育委員会事務局の全ての所属長との面談を実施し、課題等を共有するなど、日頃から報告、連絡、相談といった、組織内のコミュニケーションを大切にする意識を醸成するなかで、学校園と教育委員会が一体となって、安全・安心な学校園づくりに努めていく。

#### ○ 教職員の負担軽減に向けた取組について

教職員の時間外在校時間の上限時間内の達成率向上を図るために業務内容の把握を行うとともに、令和6年度からデジタル採点システムを導入し、定期テスト等期間に集中する教員への負担軽減を図る。また、スクールロイヤーの設置や部活動指導員の増員、スクールソーシャルワーカーの体制強化など、専門人材を活用することで、教員の負担軽減にも資する取組を進める。

#### ○ 教員の欠員に対して

産前産後休暇や育児休業等年度途中で、教員に欠員が生じた場合、児童生

徒への授業ができないなどその影響は非常に大きいことから、育児休業等を取得する正規教員の代替として任用する臨時講師については、年度当初から年間を通して任用が可能となるよう県教育委員会へ要望していたところ、令和5年度から年間を通しての任用が可能となった。

多様な働き方が進む中、小学校においては勤務時間の短い非常勤職員であっても担任として任用を可能とする、また中学校においては時間講師の任用を可能とするような弾力的な運用や、ペーパーティーチャー講座を市内小学校で県教育委員会と共催で開催するとともに、県内の学校で教員として働きたいという意欲を持った若手教員を確保するためにも、兵庫県教員採用試験において、筆記免除や大学等の推薦枠などの優遇措置を、近隣他府県並に設けるよう、県教育委員会に要望している。

欠員解消に向けた改善策については、今後も機を捉えて積極的に要望するなど、県教育委員会と連携して取り組んでいく。

## 《提言内容》

### DXの推進、情報セキュリティ強化及び組織体制の充実

#### 【本市DXの推進と最適で持続可能な業務執行体制の構築】・【内部統制の推進】

##### ・成果と課題

DXの推進については、行政手続におけるオンライン申請の促進、RPA・業務改善ツールの活用による業務効率化のほか、ウェブ会議やテレワークの推進にも取り組んできた。引き続き、業務改善や見直しを進め、ワンストップサービス等市民サービスの向上を図るとともに、組織機能を十分に発揮できる持続可能な体制の構築を実現する必要がある。また、ウェブ会議やテレワークについては、業務効率化やワーク・ライフ・バランスの観点も踏まえた利用定着を図る必要がある。

情報セキュリティ強化については、USBメモリー紛失事案を契機に、情報セキュリティ対策の強化を目的として庁内のシステム関係の契約の見直しを行うとともに、情報セキュリティポリシー等の改定、全職員を対象とした研修などの実施と情報セキュリティハンドブックの配布を行うことにより、職員の情報リテラシー向上につなげた。一方で研修などを通じ、情報セキュリティ意識の向上を図ってきた結果、全体的な意識向上にはつながったものの、取り扱う業務や職員それぞれの個人差などもあり、全ての職員へ深く浸透し完全に根づくまでには、時間を要するため、時流に沿った事柄や外部監査の視点を研修に反映させるなど、取組に工夫が必要であり、二度と同様の事案を発生させない強い決意を持って情報セキュリティの強化に努める必要がある。

組織体制の充実については、令和5年4月1日向けの組織改正では、情報部門の人員体制強化等の機能強化を図るなど、組織体制の充実に取り組んだ。

##### ・今後の取組方針

DXの推進、情報セキュリティ強化及び組織体制の充実に向けては、外部登用のデジタル政策監の指導・助言の下、情報システム関係事務のさらなる見直しや組織体制の再構築、研修等の強化による人材育成など、組織横断的に取組を進めていく必要がある。さらに、行政手続のオンライン申請を起点とした効果的な窓口サービスの在り方について検討を行い、オンライン申請適用業務の拡大を図るとともに、デジタル弱者への配慮をしつつ一層のデジタル化を推進すべきである。また、USBメモリー紛失事案調査委員会からの調査報告書を踏まえた情報セキュリティ強化策の実施を着実に行うべきである。

## 《提言に対する取組内容》

### 【令和6年度予算編成への反映状況及び今後の取組方針】

#### ○ 組織体制の充実について

自治体 DX の一環である自治体情報システムの標準化・共通化を集中的に推進するため、行政マネジメント部に担当課を設置する。また、同担当課設置に伴い、あまがさき共創 DX プランに基づく取組を着実に具体化するため、デジタル推進課は DX 及びセキュリティ対策を重点的に推進する体制に強化する。

また、市長をトップとした「DX 推進会議」を設置し、令和5年7月1日付けで外部人材の登用により採用したデジタル政策監とともに、各案件の進捗や課題を全体共有・議論することで、「あまがさき共創 DX プラン」に基づき、庁内横断的に DX を推進する。

合わせて、階層別研修等を活用して、DX を推進できる人材と活用できる人材の両面から、庁内に DX 人材を育成する。

#### ○ DX の推進について

DX 推進会議において「あまがさき共創 DX プラン」を策定し、取り組んでいく施策の方向性を示した。本計画の最大の特徴は、本市の強みである共創文化を活かした、市民、職員のニーズに寄り添った DX の推進となっており、ニーズを起点として、新たに市政アンケートの一元化によるアンケート回答数の増と回答データの活用、業務プロセスの見える化と課題抽出による業務改善などの取組を進める。

#### ○ 情報セキュリティの強化について

令和5年度に引き続き、個人情報を取り扱う全てのシステムに、第三者の視点による客観性や専門性を確保できる外部監査又は市職員による内部監査を実施するほか、令和6年度は令和5年度に実施した外部監査の視点を情報セキュリティ研修の内容に加える等、研修内容を工夫・改善する。また、本市の情報セキュリティポリシーを令和5年度実施の情報セキュリティ監査結果や国のガイドライン等を考慮し、適宜更新する。